青森県総合学校教育センター　教科等教育長期研究講座報告［2012.3］
Ｇ２－０３

中学校　社会

学習した内容を活用して歴史の流れを大観し表現できる生徒を育成する指導法の研究
――時間ごとのまとめと単元全体を振り返る場面を工夫して－

十和田市立切田中学校　　教諭　　佐　々　木　　聡　美

要　　旨

本研究は，一時間ごとのまとめを工夫する（付せんを活用して，意見交換の前後に個のまとめを２回行う）ことによって，単元全体を振り返る場面で，生徒が学習したことをまとめた付せんを活用して歴史の流れを大観し表現できることを，授業を通して明らかにしたものである。生徒は，一時間ごとのまとめを自分の言葉で説明し意見交換することを通して理解を深める。さらに単元全体を振り返る場面においては，それらの付せんに記入した一時間ごとのまとめ相互の関連を考え，振り返りシートへ適切に配置することで，歴史の流れを大観し時代の特色を漢字一字で表現できるようになった。

キーワード：中学校　社会　歴史的分野　付せん　振り返り　時代を大観

Ⅰ　主題設定の理由

今回の学習指導要領の改訂では，各教科等において言語活動の充実を図ることが求められたことを受けて中学校学習指導要領解説（平成20年９月）社会編の歴史的分野において「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動」が新たに設けられた。中尾敏朗は，「中学生たちは，諸情報の集合を総体として理解すること＝全体認識が一般に得意ではない（2011）」としている。本校の生徒も，諸情報について調査する，調査結果を発表するなどの活動には意欲的に取り組み，概ね知識は身に付いているが，学習した内容を関連付けたり，総合したりする活動は苦手としている。そこで，本研究では，歴史的事象に関する知識が断片的なものにとどまらないように，事象間の関連に着目して，説明し意見交換する活動を取り入れ，単元全体のまとめとして「歴史の流れを大観し表現する活動」に焦点を当てた。この「歴史の流れを大観し表現する活動」を継続することで，時代を大観し表現できるようになるのではないかと考え，本主題を設定した。

Ⅱ　研究目標

学習した内容を活用して歴史の流れを大観し表現できる生徒を育成するために，歴史的事象間の関連を自分の言葉で説明し意見交換する活動を継続することが有効であることを，実践を通して明らかにする。

Ⅲ　研究仮説

単元を通して毎時間，歴史的事象間の関連を自分の言葉で説明し意見交換する活動を継続することに加えて，単元全体を振り返る場面において，学習した内容を活用することによって歴史の流れを大観し表現することができるであろう。

Ⅳ　研究の実際とその考察

１　研究における基本的な考え方

(1) 事象間の関連を自分の言葉で説明し意見交換する活動の意義について（課題設定との関係）

岩田一彦は，「情報を蓄積するだけでは社会が分かるようにはならない。それは材料だからである。自然科学者が顕微鏡を組み立てたり，建築家がさまざまな機械や道具を使って家を建てたりするように，社

会事象が見えるようにするためには，各人が組み立てた概念装置が必要である（2006）」としている。ここでの概念装置（法則性や概念）は，「何故」という問いに対する説明として形成されると述べている。

生徒自らが，なぜと問いながら事象間の関連に着目し，法則性や概念を組み合わせて他の人が納得できるように説明することは，社会的な見方や考え方を養うだけでなく，学習した内容の理解や認識を一層深めることにつながると言える。また，互いに説明し意見交換することは，生徒一人一人の「聞く力」と思考力・判断力・表現力等の育成において，解釈・判断が独断と偏見に陥らない有効な手だてと考える。

伊藤純郎は「「自分の言葉で表現」する学習とは，「単純な記憶やその再生」（「暗記物」）ではなく「よく考え納得して身に付けた内容」を「焦点や脈絡をもった自分の言葉」で説明（時には論述）する営みに他ならない（2011）」としている。本研究では，毎時間「なぜ疑問」（近藤誉輔，2011）を中心とする課題解決学習を行い，生徒が追究した内容を，自分の言葉で説明し意見交換する活動を設定した。

⑵ 学習した内容を活用して歴史の流れを大観し表現する活動（単元全体を振り返る場面の設定について）

古代や中世といった「我が国の歴史の大きな流れ」を「各時代の特色を踏まえて理解させる」という歴史的分野の基本的なねらいを踏まえ，新たに設けられた「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動」は，学習した内容の比較や関連付け・総合などを通して他の時代との共通点や相違点に着目しながら「つまりこの時代は」「この時代を代表するものは」など時代の特色を大きく捉え，言葉や図等で表したり，互いに意見交換したりする学習活動である。

本研究では，単元全体を振り返る場面を指導計画に位置付け，一時間ごとのまとめを活用することで歴史の流れを大観できるようにした。また，内容の取扱いにおいて「各時代の学習の初めにその特色の究明に向けた課題意識を育成」することが求められていることから，図１の学習内容の構造図を作成して，歴史の流れを大観し表現する活動に向けた単元課題（構造化）と一時間ごとの学習課題（焦点化）を設定した。ここでは，単元課題を「このころの日本を漢字一字で表そう」とし，学習した知識や内容，概念を活用して自分の言葉で表現できるようにした。

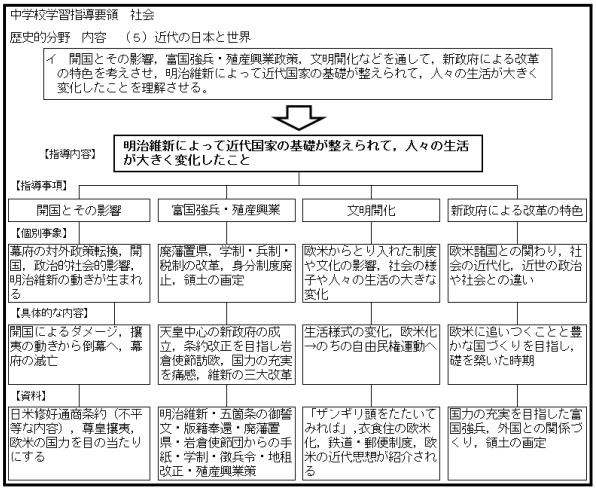

図１　学習内容の構造図

⑶ 年表形式ワークシート，付せんの活用・説明し意見交換する活動，振り返りシートについて

本研究では，取り組みやすさを考えて，一年時より歴史的分野で使用している年表形式ワークシートを用いることとした。その際，課題意識をしっかりもたせるために，単元課題「このころの日本を漢字一字で表そう」と一時間ごとの学習課題を書き加えた。まとめについては，これまでのまとめ欄ではなく付せんに記入して年表形式ワークシートに貼るようにした。付せんは，貼り直しや並べ替えができるためグループで説明し意見交換する活動や単元全体を振り返る場面で活用することができる。年表形式ワークシートと付せんの点検の際に，事象間の関連について記述しているか，単元課題の解決につなげていけそうかなどを指導した。

単元全体を振り返る場面では，図２の振り返りシートを使用し，これまでの一時間ごとのまとめ（付せん）の相互の関連を考えて配置できるようにした。また，学習した内容の比較や関連付け・総合などを通して自分の言葉で表現できるように，使用するのは振り返りシートと付せんのみとした。さらに，本単元では教科書が時系列に沿った配列ではないため，どのように並べ替えるかで歴史の流れをどう捉えているかも検証できると考えた。

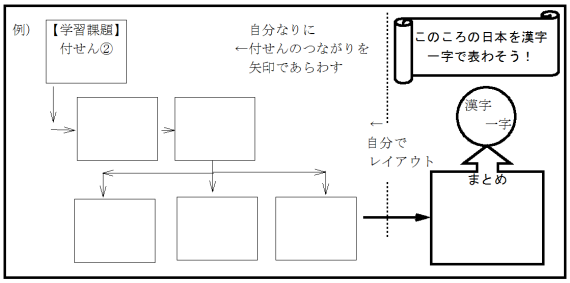

図２　振り返りシート

⑷ 検証内容の比較のために

本研究では仮説の有効性を検証するために，前単元「近代革命」と本単元「近代日本の歩み」の二つの単元を以下のような指導計画で実施し，比較する（ア，イ，エは両単元で実施，ウは本単元のみ実施）。

ア　時代の特色の究明に向けた課題意識をもたせるために単元課題を設定する。

イ　毎時間「なぜ疑問」を中心とする学習課題について課題解決し，個のまとめを付せん①に書く。

ウ　個のまとめ（付せん①）をグループ内で持ち寄り，歴史的事象間の関連を自分の言葉で説明し，意見

交換する活動を行う。意見交換を基に，新たに個のまとめを付せん②に記入する。

エ　単元全体を振り返る場面では，個のまとめ（前単元は付せん①，本単元は付せん②）と振り返りシートを用いて歴史の流れを大観し，単元課題「このころの日本を漢字一字で表そう」について自分の言葉で表現する。

２　研究の実際

(1) 単元名　　近代日本の歩み

(2) 単元の目標

ア　開国から明治維新を経て，近代国家の基礎が短期間で形成されていく様子を，欧米諸国の動きや新政府の諸改革のねらいと関連付けて考えようとしている。一時間ごとの学習で身に付けた知識と技能を活用し，近代日本の歴史の流れを捉えようとしている。

イ　欧米諸国のアジア進出や開国の影響，新政府の諸改革のねらいや文明開化がもたらした生活の大きな変化など，諸事象の関連に着目しながら考察することができる。考察したことについて，自分の言葉で説明し意見交換する活動を通して，近代国家形成の歴史の流れを漢字一字で表現することができる。

ウ　開国とその影響，富国強兵・殖産興業政策，文明開化に関する様々な資料を収集し，有用な情報を適切に選択して読み取ることができる。

エ　開国から明治維新を経て近代国家を形成していく過程を，欧米諸国の動きとの関わりを通して理解することができる。文明開化や殖産興業政策によって，生活に大きな変化が生まれたことを理解できる。

(3) 単元の指導計画

時	題　材　名		学習活動【一時間ごとの学習課題】
1	開国と不平等条約	単元課題　このころの日本の漢字一字で表そう！	開国の経緯や不平等条約について調査し，【なぜ幕府は開国を覚悟したのだろう？】を解決し，※個人で付せん①にまとめ，それをグループ内で持ち寄り意見交換。その後，個人で付せん②に再度まとめる。
2	江戸幕府の滅亡		江戸幕府の滅亡について調査し，【なぜ薩摩藩や長州藩は攘夷から倒幕へ転換したのか？】を解決し，上記※と同様。
3	新政府の成立		新政府の成立について調査し，【明治維新とはどのようなものだったか？】を解決し，上記※と同様。
4	維新の三大改革		学制・徴兵令・地租改正について調査し，【維新の三大改革のうち，自分ならどれを最優先するか？】を解決し，上記※と同様。
5	文明国を目指して		殖産興業や文明開化について調査し，【当時の人々になったつもりで感想を言おう！】を解決し，上記※と同様。
6	近代的な国際関係		明治政府の外交について調査し，【岩倉使節団は欧米視察で何を考えたか？】を解決し，上記※と同様。
7 本時	開国から明治維新		これまでのまとめ付せん②を歴史の流れが分かるように振り返りシートに並べ替え，単元課題【このころの日本を漢字一字で表そう】について自分の言葉で表現する。

(4) 本時の指導

ア　題材名　　開国から明治維新（単元全体を振り返る場面：歴史の流れを大観し表現する活動）

イ　本時のねらい

開国後の日本では，明治維新によって様々な制度や政策が行われ，国際的地位の向上を目指して近代国家が形成されたことを，一時間ごとの意見交換を基にしたまとめ（付せん②）を活用して相互の関連付けを考えながら，開国から明治維新までの歴史の流れを漢字一字で表すことができる。

(5) 生徒が表現した漢字一字と理由

求…ペリー来航により開国し，不平等条約を結ぶ。戦ってみると欧米は強く，倒幕して天皇中心の政治に戻そうと考えるようになる。明治維新では，富国強兵を目指して三大改革が行われ，貿易により欧米からの輸入品が増えた。不平等条約改正に岩倉使節団が欧米へ。外国産業のすばらしさに驚き日本も力をつけようと痛感。特に市民革命のないドイツの憲法を参考にしようとした。

進…アメリカの強い態度や軍艦の大きさに驚き，また，アメリカよりイギリスが先に来るとアヘンを使われる恐れがあると考え，アメリカと条約を結び開国。外国との戦いで力の差を感じた薩長は攘夷から倒幕へと考えを変え力をつけなければと思うようになる。明治維新では差別をなくし天

皇を中心とした国家を目指して，明るく国を治めたいと考えた。岩倉使節団の欧米視察では当初の条約改正から欧米の進んだ政治や技術を学べるだけ学ぼうと考えるようになった。
蛙…富国強兵や洋風の暮らしなど欧米をまねたが，欧米の勢力にはかなわなかった。日本は蛇ににらまれる蛙。欧米に対抗するために国を「変えていく」の意味も考えて「かえる」。
他に表された漢字…革（２人）・明（２人）・変（２人）・礎・集・豊・示・力・強・歩・欧・改

３　考察

(1) 一時間ごとのまとめに付せん（①のみ）を用いたことについて

図３は，本研究に入る前の年表形式ワークシートへのまとめ記入と，前単元から用いた付せんへのまとめ記入についての意識調査の結果である。11人の生徒が付せんの方が良いと答え「年表形式ワークシートに頼らずにできた」「学習課題に対するまとめは焦点を絞ることができて書きやすかった」「単元全体を振り返る場面でもはがせて簡単に見比べられる」など，課題意識をもって主体的に取り組めたことや学んだことを焦点化できたことを理由に挙げている。

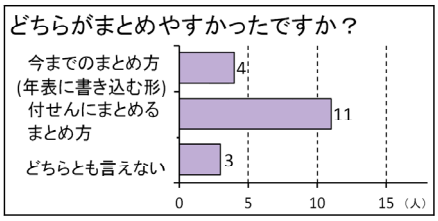

図３　まとめ方の違いに関する意識調査

一方，これまでのまとめ欄への記入が良いとした４人は「振り返って細かなところまで見直せる」「たくさん書くことができ，先生の話を絵などを用いてメモできる」など，様々な情報を記録しておけることを理由に挙げていた。また，それぞれの利点があるとして，３人がどちらとも言えないと答えている。

(2) 歴史的事象間の関連を自分の言葉で説明し意見交換する活動について

図４は，前単元の個人のまとめ（付せん①）のみと，本単元の歴史的事象間の関連を自分の言葉で説明し意見交換する活動を取り入れた後のまとめ（付せん②）についての意識調査の結果である。意見交換後のまとめ（付せん②）では16人がまとめやすかったと答え，「違う視点の意見を聞くことで考えが膨らんだり，変わることもある」「気付いていないことに気付けた」「今までにはなかった考えが浮かぶ」「改めて考え直すことができる」などの理由を挙げた。

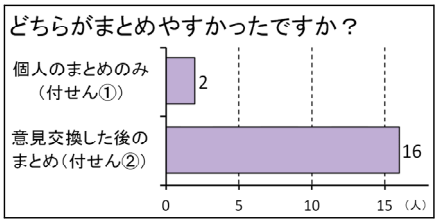

図４　付せんの使い方の違いに関する意識調査

個人のまとめ（付せん①）のみが良いと答えた２人は，「意見交換することで自分の考えの根本がずれてしまう」「他の意見を聞けるのは良いが，聞いているうちに自分の考えが分からなくなる」と理由を挙げている。これは，意見交換する活動が互いに納得できるまでには至らず，歴史的事象間の関連を自分の言葉で説明し合うところまでしかできなかったことによるものと考えられる。一時間ごとのまとめや意見交換する活動において，学習課題の再確認や話合いの視点をはっきりさせること，付せん①と②の記述形式の検討も必要であったと考える。

図５は，意見交換する活動を取り入れたことに関する自己評価である。意見交換する活動を通して，「できた」「だいたいできた」と答える生徒が多く，達成感をもって取り組めたようである。また感想から「前回よりも深く考えられた」「意見を聞いて自分の考えを見直し，発表する流れが新鮮だった」「話合いにより自分のまとめを発展させることができた」「文章を書くのは苦手だが，説明は楽しい」など自分の考えを基にして他と関わり，学びを深めることの楽しさを感じている様子がうかがえる。

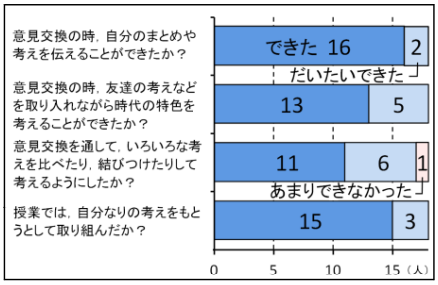

図５　意見交換する活動を取り入れたことに関する自己評価

本研究を始めるに当たり，「調べたことは発表できるが考えを発表するのは苦手」「互いに学びを支え合い深め合う学習経験が少ない」「まとめの共有場面や多様な意見を交流させる場面が少ない」という生徒の様子や授業の反省があった。いずれも他との関わりが前提となるため，グループ内で説明し意見交換する活動を取り入れたいと考えたが，上記の感想から，互いにコミュニケーションを楽しみながら学ぶことができたようである。図６から，前単元開始前と本単元終了後のグループ学習に関する意識の変化も見られる。

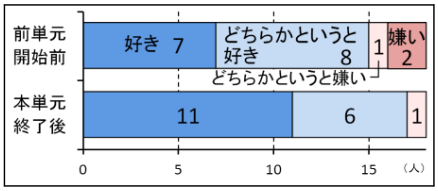

図６　グループ学習の意識調査

(3) 単元全体を振り返る場面で，歴史の流れを大観し漢字一字で表現したことについて

図７から，個のまとめ（付せん①）を使用した前単元よりも意見交換後の個のまとめ（付せん②）を使

用した本単元の方が取り組みやすかったと感じる生徒が多くなっている。理由は，前単元では自分のまとめに自信がもてなかったり，取組方や関連付けの難しさに戸惑ったりしたが，本単元では意見交換することで友達の意見を参考にして，「なぜそうなったのか」という視点で理解することができたからというものであった。また，「みんなと一緒に進めている感じで安心する」と答えた生徒もおり学び合いが充足感につながっていると言える。

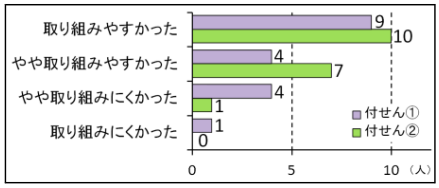

図７　振り返る場面で付せんを活用したことに関する意識調査

学習内容については，単元全体を振り返る場面を設定したため，「単元末に一時間ごとのまとめを関連付けたので，内容が理解できた」「振り返るとよく出てくる言葉が見つかり，自分なりに理解できて全体が分かった」など理解が深まったと答える生徒が多かった。

学習内容の関連を考えながら，振り返りシートにまとめ（付せん②）を貼り付ける活動では，18人中９人が教科書通りの配列ではなく時系列を考慮して並べ替えていた。「付せんを出来事順に並べることが難しく，まとめを書く時間が足りなかった」との感想から，本単元６時間分の付せん②６枚を見ながら，頭の中で関連付けることは難しく，思考力が必要とされたと思われる。また，付せんを矢印で結び，余白に関連を表すコメントや思い浮かんだ漢字一字を書き込む生徒も見られ，「矢印」ではなく「線」で結ぶことを指示していれば，一方向でのみつなげていた生徒も並べ替えやすかったのではないかと思われる。

歴史の流れを大観し漢字一字に表現することについては，図８・図９から「振り返りがしっかりとできた」「時代の特色がよく分かった」など意義が理解できたと答える生徒は多かったものの，活動自体には前単元よりも本単元の方に難しさを感じた生徒が多かった。

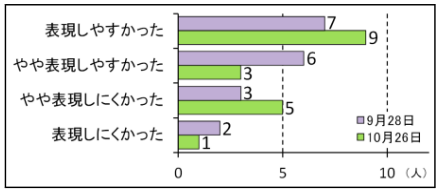

図８　歴史の流れを大観する表現活動に関する意識調査

しかし，「意味の合う漢字一字がうまく見つからなかった」「頭の中に浮かぶイメージが熟語だった」「頭に浮かんだたくさんの漢字一字から選ぶのに迷った」など，より思考力を働かせた結果と考えられる。また，両単元とも「表現しにくかった」という答えの理由が，前単元では「表現しにくいというよりもやる意味が分からない」から，本単元では「漢字一字を考えることでその時代にこのようなことがあったのだと振り返ることができる」に変化していた。図９は，単元全体を振り返る場面を設定したことについて，生徒が気付いたことや考えたことを書いたものである（①～⑱は名簿番号，⑦は無答）。

	前単元後の単元全体を振り返る活動について	本単元後の単元全体を振り返る活動について
①	今までの年表形式ワークシートへのまとめより，付せんの方が覚えやすかった。	前回の付せん①のみの時はあまり深く覚えることはできなかったけれど，今回の付せん②ではみんなの意見を取り入れて深く理解できた。
②	自分のまとめには少し足りないところがあったので，次にまとめるときはもう少し詳しく書いた方がいいと思った。	最後の漢字一字に表す時の理由で，同じことを勉強している中でいろいろな意見が生まれるのは楽しい。
③	付せんを書く時に集中できなかった。	
④	イギリスから産業革命が始まって，それに影響されるように様々な国が独立したのが分かった。	明治維新をすることで，従来の日本とは雰囲気も町並みもそして人々の暮らしも大きく変わったことが分かった。
⑤	再度思い出すことができたので良かった。	まとめられていてまとめやすかった，いろいろな人の考えが分かった。
⑥	最後に単元全体を振り返る活動をやったことで，それぞれのまとめをつなげてみることで，より深く分かった。	最後に単元全体を振り返る活動をやったことで，それぞれをつなげることができた。
⑧	初めてのまとめ方だったが，全部結び付いて，どうしてこうなったのかがよく分かる。また，それを見ることで何をどのように勉強をしたのかも分かりやすくまとめることができた。	この付せんにまとめることで，全部が結び付いて，どういうことでどうなったのかがよく分かる。また，それを見ることでその時代に何があったのか振り返ることができる。
⑨	自分がどのくらい分かっているかが分かった。	
⑩	自分なりのまとめ方をして，自分で理解することができて良かった。「どうしたら復習の時に見やすいか」と考え，まとめ方も綺麗になる。	付せんで見やすいし，自分個人の意見と意見交換する活動の２つがあると，とても便利。
⑪	単元全体を振り返る活動をすると，年表の内容がまた頭に浮かんできて，意外と復習みたいになった。	単元全体を振り返る活動をする時に，付せん②のまとめを見ると授業の内容を思い出せるのでいいと思った。
⑫	少し難しかったけどちゃんとまとめられたから良かった。	今回も最初に迷ったけれどきちんとまとめることができて良かった。
⑬	一回やったことをもう一回やるともっと分かるということに気付いた。	自分の意見を発表でき，友達が思ったことを知ることができて良かった。
⑭	もっと書くスピードを速くして遅れないようにしたい。	イメージに合う漢字をしっかり見つけたい。
⑮	自分はまとめまでもっていくのが苦手だということが分かった。	自分はまとめが長くなってしまうということ，毎回の付せんが大変なものになるということが分かった。単元全体を振り返る活動はよく分かった。
⑯	私は前の年表形式ワークシートにまとめを書くやり方より付せんを使ったり単元全体を振り返る活動がある方が覚えやすくて合っていると思う。	毎時間付せんにまとめを書き，今日のような単元全体を振り返る活動をすると，より深く考え覚えることができるから自分に合っていると思った。
⑰	こうすると頭もスッキリ整理できた。	分かりやすくてより深く理解できたので良かった。
⑱	今までは単元全体を振り返る活動など，そういうことはあまりやらなかったので今回のように１時間使って振り返るとすごく身につきました。	いつもは個人でまとめているけれど，付せんにまとめてグループになって意見交換をすると，周りの意見が聞けるので付せん②にまとめやすかった。

図９　単元全体を振り返る場面についての感想

Ⅴ　研究のまとめ

単元課題と一時間ごとの学習課題を設定し，課題解決の成果として歴史的事象間の関連を自分の言葉で説明し意見交換する活動を通して，生徒は自らの学習に意欲と責任をもつようになった。また，この活動を継続したことで，それまでの学習に対する自信と達成感も得られたと思われる。図10から図13は，本検証の前

後で大きく自己評価が伸びた意識調査の結果である。特に図12は，本校の生徒が苦手としている学習した内容を比較・関連付け・総合しながら再構成する活動についての意識調査であり，「得意」「やや得意」という生徒が10人から15人へと増えている。実際に単元全体を振り返る場面では，全員が学習した内容を活用して歴史の流れを捉え漢字一字に表し発表することができた。歴史的事象間の関連を自分の言葉で説明し，意見交換する活動を継続することは，学習した内容を活用して大観し表現できる生徒の育成に有効であったと考える。

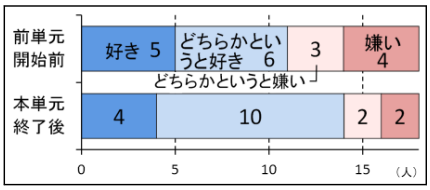

図10　説明し意見交換する活動についての意識調査

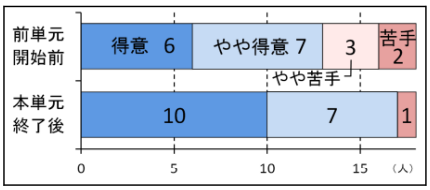

図11　考えを自分の言葉でまとめる活動についての意識

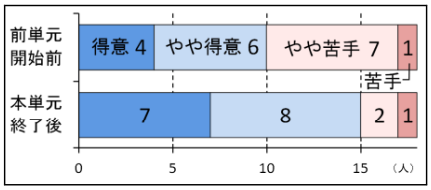

図12　比較・関連付け・総合し，再構成する活動の意識調査

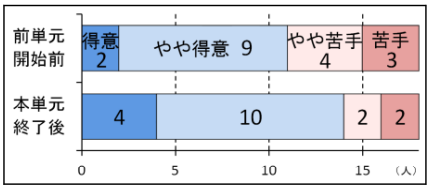

図13　根拠・創造を求めるテスト形式の意識調査

Ⅵ　本研究における課題

この取組を終えた後，「『なぜ疑問』の学習課題が取り組みやすかった」「自分の言葉で説明し意見交換する活動をまたやりたい」などの声が生徒から寄せられ，今まで周りの反応を気にして意見や考えを発表できなかった生徒も，この単元では生き生きと説明をし意見交換する活動に参加していた。また，これまで個人の調査活動や一時間ごとのまとめになかなか取り組めずにいた生徒も自分の言葉で説明し意見交換する活動があるということから，付せんへの記入を一時間も忘れることなく行っていた。この授業の流れでは，生徒が一つ一つの学習活動のつながりを感じながら，見通しをもって取り組めることと学習形態が変化することから集中して取り組むことができた。しかし，一時間の授業内に学習課題の把握，課題解決のための調査活動，調査内容の発表，個のまとめ，自分の言葉で説明し意見交換する活動，二度目のまとめを組み込むことは，時間的に厳しかった。先述したように「意見交換することで，自分の考えの根本がずれてしまう」や「他の意見を聞けるのは良いが，聞いているうちに自分の考えが分からなくなる」という感想もあり，意見交換する活動が互いに納得するまでには至らず，歴史的事象間の関連を自分の言葉で説明し合うところまでしかできなかったことも考えられる。話合いの視点を明確にすることや話し方，発表の仕方を丁寧に指導することで，更に言語活動の充実を図るとともに，単元計画を練り直す必要がある。また，「歴史の流れを大観し表現する」，さらに「時代を大観し表現する」ためには，このような単元全体を振り返る場面を継続していくことが必要と考える。そして，各時代についての特色を捉え，生徒が漢字一字で表現したものが目に見える形で蓄積されていくことで，歴史の大きな流れを大観できるようになるのではないかと考える。

＜引用文献＞
中尾敏朗　2011　『中等教育資料　平成23年６月号』，p.54，ぎょうせい
伊藤純郎　2011　『中等教育資料　平成23年６月号』，p.27，ぎょうせい
岩田一彦・米田豊編著　2009　『「言語力」をつける社会科授業モデル　中学校編』，p.104　明治図書出版

＜引用ＵＲＬ＞
岩田一彦　2006　『言語力育成協力者会議（第２回）配布資料［岩田委員説明資料］』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryo/06071220/006.htm（2012.2.6）

＜参考文献＞
文部科学省　2008　『中学校学習指導要領解説　社会編（平成20年９月）』
岩田一彦・米田豊編著　2009　『「言語力」をつける社会科授業モデル　中学校編』　明治図書出版
大杉昭英　2010　『中学校社会科　活用学習のファックス教材集　歴史編』　明治図書出版
伊藤純郎　2011　「「自分の言葉」で表現する歴史学習－歴史は暗記物ではない－」　『中等教育資料　平成23年６月号』　ぎょうせい